

日本精神保健社会学会

2021年10月1日

THE JAPAN ASSOCIATION OF

事務局：東京都豊島区西池袋 2-39-8

MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

ローズベイ池袋ビル 3階 東京メンタルヘルス内

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

日本精神保健社会学会事務局：担当/村上

ニュースレター第73号

TEL：03-3986-3220/ FAX 03-3986-3240

発行人：宗像恒次 編集人：山本美奈子

E-mail: murakami@t-mental.co.jp

第27回 日本精神保健社会学会学術大会・総会のお知らせ

大会テーマ：『コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題
－個人の課題と社会の課題－』

会員の皆様には、日ごろより学会活動の運営にご協力頂き、心よりお礼申し上げます。

今年度の学術大会・総会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の終息が見通せない状況から、昨年度に引き続きオンラインでの開催となります。

今年の大会テーマは『コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題

－個人の課題と社会の課題－』です。参加される皆様とともに、学び、考え、語り合う1日になりましたら幸いです。

●開催日時：2020年11月23日（火）祝日、10時00～17時00分

●大会テーマ：コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題

－個人の課題と社会の課題－

①基調講演 宗像 恒次 学会長

②シンポジスト

○福田 陽明 氏

（都立松沢病院 精神科医）

○藤田 愛 氏

（北須磨訪問看護・リハビリセンター 所長）

- ツール：ビデオ会議システム（Zoom）を用いて開催
- 参加申込：学会事務局にメール（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）にて、氏名、メールアドレス、電話番号を記載のうえ、お申込みください。



- 参加費：一般 3,000 円、学生 2,000 円
- 参加振込み：**2021 年 11 月 12 日（金）**までにお振込みください。

振込名には、個人名および「参加費」とご記載ください。振込み確認後、学術大会・総会前日までに、招待メールをお送りします。運営の都合上、当日申し込みの参加はできませんので、ご理解とご協力をお願い致します。

- 研究発表：別途 2,000 円が必要になります。

※10 月 5 日（火）までにエントリーし、学会事務局から受理の連絡があった方が対象になります。

- 振込先：ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

基調講演のご案内

○ 宗像 恒次氏（筑波大学名誉教授、日本精神保健社会学会会長）

テーマ：コロナ禍のストレスを乗り越えるレジリエンスの課題

－個人の課題と社会の課題－



私たちはストレス自体をなくすことはできないが、ストレスを乗り越えるレジリエンス力を高めることはできる。最近のコロナウイルス感染の拡大にともなって感染への予期不安や感染体験を通じてそのストレスが増大し、レジリエンス力を高めるべく個人の課題や社会の課題を心の危機や問題として抱えている。

心の危機や問題とは、次の心の欲求を充足できるかどうかに関するストレスを抱えていることである。すなわち、コロナウイルス感染に伴う命の問題に関わって、①周りの人から見捨てられる心の危機や問題（慈愛願望欲求に関するストレス）、②自分を信じることができなくなる心の危機や問題（自己信頼欲求に関するストレス）、③大切な人を信じ、守れない心の危機や問題（慈愛欲求に関するストレス）である。

そのようなとき、人はそうしたストレスに関する気持ちを周りから傾聴され、基礎疾患を含めコロナウイルス感染の予防や治療してもらえる支援をもとめることができる。だが、周りの人である家族や親族、保健医療職、福祉職、カウンセラーなど支援する側にストレスが生じ、傾聴し支援することが妨げられる気持ちや欲求(心理ブロック)が生じて、カウンセラーを含め専門家でも大変困難なことである。むしろストレスを抱えた人が自分で自分をカウンセリングした方がいい面がある。

しかし、人は自分の身体の中に自分の固有の遺伝子ではないキメラ細胞(chimera cell)を抱えている。すなわち自分の気持ちや欲求や記憶ではないキメラの自分を抱えている。妊娠した母親が妊娠中胎児の好みで食していることが出産後わかることはよく知られたことである。また、臓器移植、多胎融合、流産などによって、母親、父親、きょうだい、子ども、臓器提供者などのキメラ細胞で他の人の気持ち、感情、欲求、記憶をかかえることになる。従って自分をカウンセリングしたときもキメラ細胞による心理ブロックが生じ、あるがままの自分に気づくことができないところがある。

それらキメラの気持ち、感情、欲求、記憶は脳扁桃体の顔反応性細胞を介した身体感覚がつくり、人に対する「感じ方」をつくりだすところがある。それらの顔表情記憶が身体感覚として身体良好感がつくられている人は、肯定的な気持ち、感情でストレス問題の結果からも学ぶ自己肯定感のある前向きな感じ方がつくられやすく、反対に身体感覚として身体違和感がつくられている人は自己否定的な感情で後ろ向きな感じ方がつくられ、ストレスがつくられやすく、レジリエンス力が高まらない面がある。

私が開発した SAT 法では、構造化した Structured（光イメージ法、代理顔表象法、光景イメージ法を用いて「感じ方」を変える）方法を用い、ひらめき、直感力、連想力（Association）で、自分の思考ではコントロールできないストレスを解消する見通しを高める技法（Technique）をとる。

人はどのようなストレスであれ、無自覚でも身体緊張をもっており、夕焼け色など 500～600nm の中波長の電磁波の光イメージをみると細胞緊張興奮が抑えられ、身体感覚として身体違和感があっても身体良好感に変えられるだろう。身体良好感はストレス問題の結果から学べる自己肯定的な感情が生まれ、前向きな「感じ方」が作りだされるようになり、レジリエンス力が高まり、喜びや幸せを生み出すウェルネスを促すようになるだろう。

シンポジウムのご案内

今回は、コロナ禍における精神医療や地域の訪問看護でご活躍されておられる方をシンポジストにお招きし、お話しをして頂きます。ファシリテーターは、本学会の理事、山本美奈子氏（山形大学）が行います。当日のシンポジストの要旨をご紹介します。

○福田陽明氏（東京都立松沢病院）

テーマ：新型コロナウイルス感染症の診察-精神科医の立場から

東京都立松沢病院（以下、当院）は 1879 年に開設された精神科病院であり 22 の病棟、898 床の病床を有し、一部の病棟で精神科身体合併症医療を行っている。当院は精神科身体合併症医療の延長として、全国的な COVID-19 患者の増加に伴い 2020 年 4 月 1 日より体制を変更し、精神科診断を有する COVID-19 患者専門の感染症病棟を設置した。2020 年 4 月以降の 1 年間で、233 名の COVID-19 患者の診療を行った。世間的な混乱の中で医療を行うこと、病棟管理医師として災害時の様なストレスマネジメントが必要であったこと、感染症管理を行いながら精神科診療を行う難しさ等、様々な医療者側の課題が判明した。患者側の課題としても、患者自身のコロナ禍によるストレスの問題はもちろん、閉鎖病棟への非自発的長期入院患者がいること等の精神疾患を有する患者にコロナ禍以前からあった問題もあぶり出された。本発表では、当院における COVID-19 診療体制と、症例を紹介する。COVID-19 も精神科疾患も、誰もがいつでも当事者になり得る。また、コロナ禍を生き抜くための個人の課題として、患者と医療者それぞれが抱えるストレス、またレジリエンスを高めるヒントについて論じたい。



○ 藤田愛氏（北須磨訪問看護・リハビリセンター所長）

（訪問看護師、慢性疾患看護専門看護師）

テーマ：神戸市における第四波新型コロナウイルス感染症の自宅療養・入院待機者
への訪問看護



神戸市では第四波の始まった3月末から新規感染者数があつという間に増加し、急な斜面を転がる勢いで状況は悪化していった。兵庫県と神戸市の担当部署にメールや面談で、在宅医療の仕組みを作っていただきたいと訴え続けた。2021年2月8日「高齢自宅療養者等訪問事業」が施行された。しかし、医師の訪問の体制は間に合わず、神戸市では病床逼迫、在宅医療の整備の整わなさを要因とし、多くの死亡者が出た。51名の療養者、310回の訪問を行った。必要な医療が受けられないまま、悪化やこぼれゆく命を前に自分の悲鳴を飲み込んで、崩れ落ちてしまいそんな自分を何度も立て直す毎日だった。兵庫県、神戸市で、全国で、二度と必要な医療を受けられず悪化、死亡することを繰り返してはいけない。

★研究発表の追加募集★

1. 発表の申込み

より多くの方に発表して頂きたいため、申込み期限を **10月23日（土）まで延長**しました。また発表形式を「オンライン口頭発表」と「紙面発表」の2種類にしました。

2. 申込み方法

1) 演題名と発表代表者名、連絡先（電話およびメールアドレス）

2) 発表形式：「オンライン口頭発表」、「紙面発表」のいずれかを希望

3) 抄録の定型：「実践報告型」、「科学研究型」のいずれかを希望

上記1)～3)をご記載のうえ、学会事務局宛てにメールにてお申込みください（本ニュースレター 1 ページ右上に記載）。

3. 手続きの流れ

1) 学会事務局から受理の連絡後、担当者から抄録フォーマットを発表代表者宛てにお送りします。

2) **10月23日（土）まで**に抄録を担当者宛てにご送付ください。抄録は、本学会定型の「実践報告型」、「科学研究型」のいずれかで、A4、1枚になります。なお、発表者が多数の場合は、発表形式が希望通りにならない場合があります。

※発表申込みを追加募集したため、申込み日と抄録提出日が同日になります。抄録の提出が遅れる場合は、担当者に直接ご相談ください。

4. 発表要件

1) 学会費の納付

発表者全員が本学会の会員であること。また、2020年度の年会費（2020年10月1日～2021年9月30日）と2021年度の年会費（2021年10月1日～）の納付済みであることを要件とします。

2) 研究発表の参加費

研究発表の参加費は、別途2,000円が必要となります。振込みは、**11月12日（金）**までをお願い致します。

3) 振込み先

ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

振込名には、個人名および「研究発表」とご記載ください。

○鈴木 裕子（和洋女子大学看護学部）

私は大学で在宅看護学を担当し、在宅医療を担う看護師を養成しています。近年は、理学療法士等、様々な専門職や関連機関と連携して在宅ケアが提供されています。昔の様に医師が行う「往診」のイメージとは違い、「訪問診療（定期的訪問）」が基本です。今回は、私のケアカフェ活動、中でも「人生会議」について紹介し「人生最終段階の医療の選択」について話し合い準備しておく事の大切さをお伝えできればと思います。

戦後、病院の仕組みができるまで在宅での看取りがあたり前でした。それが、病院ができてからは、病気も看取りも病院に任せてきました（お任せ医療）。ところが日本は世界に類のない勢いで超高齢社会となりベビーブーム世代が寿命を迎えると死亡数が増え「多死社会」となりました。“介護難民”“看取り難民”と言われる状況にあります。医療が発展する一方死を巡る問題も浮上し、少し前にも自殺幫助を行った医師が逮捕されました。国は1987年終末期医療に関する指針、現「人生最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン(2018年改訂)」を策定したのですが、厚生労働省の調査(2017)では、Advance directive (AD):事前指示書を作成した市民は僅か、8.1% でした。加えて現在、COVID-19による影響から、医療体制や看取りの様相もだいぶ変わりました。隔離のために、最期の時を大事な人と過ごせない事から在宅医療を選ぶ人が増えています。また自宅療養に迫られながら、医療が受けられない人も急増しています。約 70 年もの間人の死や看取りから遠ざかっており、最期の時にどの様にしたらよいか分からないまま悔いを残す声も聞かれていました。そこに COVID-19 の甚大な災害が発生し医療は逼迫し混乱しています。話し合って備える事が非常に困難になっています。

私はケアカフェ活動の中で、毎年「人生会議」を開催しこの問題を話し合っています。終活は大分浸透しましたが、看取りを巡る医療の選択に関わる意思決定について繰り返し考え話し合い、人も含め環境を整え準備する事が不足しています。在宅医療サービスを知り上手く活用する事で苦痛の緩和に繋がり、看取りや人生の質を高めます。死について考える事に抵抗がある人が殆どの様です。無理にしない事も大事です。しかし一方で徐々にでも町をあげて専門家も含め、家族でも繰り返し話し合い、備えていく事の必要にも迫られています。幼少期から死や看取りについて教育する文化の醸成が求められています。

会費納入のお願い

本学会の活動は、会員の皆様の会費によって支えられています。2020年度の年会費は、2020年10月1日から2021年9月30日の期間です。また、2021年度の年会費は、2021年10月1日から2022年9月30日の期間です。2021年度の年会費のお支払いをお願い致します。

なお、2020年度の年会費納入がまだの方は、速やかに納入くださいますようお願い致します。会費、振込み先は以下の通りです。

会費 通常会員 5,000円 学生会員 3,000円

振込み先 ゆうちょ銀行 加入者名 日本精神保健社会学会 00170-6-613036

なお、前年度の未納分を併せてお振り込み頂く場合、本年度会費に未納会費を加えた金額を記入の上、通信欄に「〇〇年度分と2年分」とご記入下さい。その他ご不明な点がございましたら、学会事務局にお問い合わせ下さい。

ニュースレター寄稿のお願い

年に3回発行するニュースレターに、会員の皆様からのご寄稿を心より歓迎いたします。テーマは、学会への思いやご自身の活動など学会に関連することでしたら、どんな内容でも結構です。

文字数 : 500～800前後

発行時期 : 6月、9月、12月を予定

原稿締切 : 発行の1ヵ月前を目安に事務局にお送りください。

(氏名、電話番号、メールアドレスをご記載ください)



日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-39-8 ローズベイ池袋ビル 3 階 東京メンタルヘルス内

日本精神保健社会学会事務局 担当：村上

TEL: 03-3986-3220 FAX: 03-3986-3240 E-mail: murakami@t-mental.co.jp

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名：日本精神保健社会学会

※ E-mail、FAX、郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男 ・ 女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属・自宅 を希望する
所属名 及び住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
自宅住所	〒 TEL. FAX. E-mail.		
所 属 系 (○印)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・体育学・地理学 行政学・政治学・その他()		
関心領域			